

国語科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
古典B	2年3組（普通科）38名 （男子17名，女子21名）	2年3組	古典B （桐原書店）	北園ゆきえ

1 単元（題材）名

和歌の表現内容を的確に読み取り，自分の考えを深める。
教材：「和歌」（『和歌と俳諧』）

2 単元における言語活動

古典を読んで課題を設定し，様々な資料を調べ，その成果を発表すること。（古典B言語活動例エ）

3 単元（題材）の目標

- ア 和歌の内容や表現の特色を確かめながら作品の良さを考察して自分のものの見方を広げようとしている。（関心・意欲・態度）
- イ 和歌の内容や表現の特色を確かめながら作品の良さを考察して自分のものの見方を広げている。（読む能力）
- ウ 和歌に用いられている語句の意味，用法および修辞技法を理解している。（知識・理解）

4 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 和歌の内容や表現の特色を理解して読み味わい，作品の良さについて考察しようとしている。 ② 和歌を読んで，作者の思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとしている。	① 和歌の内容や表現の特色を理解して読み味わい，作品の良さについて考察している。（「読むこと」エ） ② 和歌を読んで，作者の思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしている。（「読むこと」ウ）	① 和歌に用いられている語句の意味，用法および修辞技法を理解している。

5 単元（題材）の指導計画（全7時間）

時	主な学習内容	評価規準		
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌作品がテーマごとに「部立」に分けられることを確認する。 ・和歌を音読して，それぞれの歌のリズムを味わう。 ・10グループに分かれて，調べ学習・発表の計画を立てる。 	知識・理解①		
第2～4時	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> ・教科書掲載の和歌中8首について，教師の説明を受けて語句や文法，修辞法などを確認して歌意を理解する。 「春の夜の一」逆接強調，擬人化 「願はくは一」願望表現 「あらし吹く一」・「み吉野の一」本歌取り 「春日野の一」序詞 「風をいたみ一」喩え </td> <td style="width: 50%; border: none;"> ・教科書掲載の和歌中，講義（左）で扱うもの以外の10首について10グループで分担して調べてレポートを作成する。 </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">（上記の講義とレポート作成とを1時間おきに交互に行う。）</p>	・教科書掲載の和歌中8首について，教師の説明を受けて語句や文法，修辞法などを確認して歌意を理解する。 「春の夜の一」逆接強調，擬人化 「願はくは一」願望表現 「あらし吹く一」・「み吉野の一」本歌取り 「春日野の一」序詞 「風をいたみ一」喩え	・教科書掲載の和歌中，講義（左）で扱うもの以外の10首について10グループで分担して調べてレポートを作成する。	読む能力① 知識・理解①
・教科書掲載の和歌中8首について，教師の説明を受けて語句や文法，修辞法などを確認して歌意を理解する。 「春の夜の一」逆接強調，擬人化 「願はくは一」願望表現 「あらし吹く一」・「み吉野の一」本歌取り 「春日野の一」序詞 「風をいたみ一」喩え	・教科書掲載の和歌中，講義（左）で扱うもの以外の10首について10グループで分担して調べてレポートを作成する。			
（本時5～6時）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表と質疑応答を行い，自分の考えを深める。 ・発表に対する補足説明をする。 	関心・意欲・態度①② 読む能力②		

6 教材（単元・題材）観（単元概要）

本教材は、和歌を一つ一つの独立した韻文作品として取り扱うものである。時代としては古今和歌集から新古今和歌集までの作者の代表的な作品が広く選定されており、現在の高校生にも比較的関心の持ちやすい部立（「春秋」「恋」「離別・旅・哀傷」）ごとに収められていることで、テーマごとに現代の生活と照らし合わせて読むことができる。そのうちの多くの歌に詞書が付いていることで、その詠歌事情や作者の生きざまにも思いを巡らすことになる。このように、和歌に込められた作者の思いを考えることは、生徒が自身の価値観を発見したり再認識したりすることにもつながる。また、同じ部立の中にあっても、歌ごとに異なったものの見方・考え方が表れており、生徒が和歌世界の感覚や論理を読み取る方法を習得するのに適した教材であるといえる。

生徒は今年度の初めに「古典B」の授業で、和歌を含む説話「歌詠みて罪を許さるること」（宇治拾遺物語）を学習している。今回の題材では、これまでの学習経験を活かし詠歌事情をふまえて作者の心情表現を的確に読み取らせたい。また、グループで話し合ったり、質疑応答を交わしたりすることで、和歌に対して自分のものの見方、感じ方、考え方を広げる経験を積ませたいと考える。

7 生徒観（生徒の実際）

実施学級は普通科で、ほぼ全員が大学や短期大学など、上級学校への進学を希望している。クラスとしては、ノート記入や日々の課題などには自主的に取り組む。しかし、予習で自ら単語の意味を調べたり、文法書を引いたりすることに対しては消極的である。作品の内容への関心はあるが、文法事項への苦手意識が先に立って、積極的に読み解こうという姿勢はなかなか見られないのが実際である。

授業においては、本文の群読やペア読みなどで意欲的に声を出したり、既習事項の確認を指示されるとスムーズに行ったりするなど、見通しの立てやすい活動には活発に取り組むことができる。また、グループやペアで話し合っ意見を発表することにも、抵抗感は低いようである。その一方、作品に対する解釈や感想を問われるような場面では、自分一人で考えをまとめたり表現したりするのが苦手である。一つの課題についてじっくり考える経験が不足していると思われる。

8 指導観

本題材の指導に当たっては、自分自身の生活体験を振り返らせることで、和歌には現代に通じる季節感や恋愛観、哀感が詠まれていることに気づかせ、興味・関心を喚起する。展開においては、「修辞法」や「作者」などの知識事項を確認させることにより、歌意や詠歌事情を正しくとらえさせる。学習を深めさせるために、特に、「アクティブ・ラーニング」型の活動で生徒が課題発見・解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶように働きかけたい。まとめにおいては、グループ発表を通して、作者の心情と自らの考え方・他者の考え方を照らし合わせて、さらに自分の鑑賞を深めさせる。

9 本時の実際

（1）本時の目標

和歌について調べたことや感想を発表したり、聞いたりして、自分の考えを深める。

（2）本時の評価基準

- 和歌に対する自分の考えを深めるために、他者の発表や質問をよく聞こうとしている。
(関心・意欲・態度②)
- 作者の思想や心情を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を深めている。(読む能力②)

(3) 本時の展開 (6/7)

過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価方法
導 入	3	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を振り返る。 本時の学習内容と学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に使用したワークシートを配布し、前時の学習内容を確認する。 	行動の確認
展 開	2	<p>【展開①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表の方法や、聞き方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の声量や目配り、聞き手のメモなどについて注意を促す。 感想用紙を基に、質疑応答を行うことを確認する。 	行動の確認 (関心・意欲・態度)
	8	<ul style="list-style-type: none"> 本時発表を担当する2グループは資料を配布して、発表を行う。(4分×2) 		
	4	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手は、用紙に疑問点や意見などを<u>書く</u>。(2分×2) 個人活動 	<ul style="list-style-type: none"> 語句や文法、修辞法など知識に関する質問は避けるように注意する。 人によって解釈や意見が分かれるような課題を設定するよう促す。 読んだことのある別の和歌と比べての共通点や相違点から質疑を引き出す。 自分の経験と重ねることで、詠まれている感覚や価値観は現代に通じるものかどうか考えるよう促す。 	行動の確認 (関心・意欲・態度)
	15	<p>【展開②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌調べグループごとに机を寄せて着席する。 <u>グループで自分の書いた疑問点について、付箋を用いて話し合う</u>。グループ活動 グループで質問を一つに絞り、色画用紙に書いて黒板に貼る。 		
10	<ul style="list-style-type: none"> <u>発表担当グループは、黒板に貼られた質問について話し合って回答する</u>。 質問した側は回答に対して感想を述べる。(5分×2) 			
	5	<ul style="list-style-type: none"> <u>再度、発表された和歌について、個人の気づきや考えを書く</u>。個人活動 	<ul style="list-style-type: none"> 感想用紙を基に、グループでの話し合いや質疑応答の内容を振り返らせる。 	記述の確認 (読む能力②)
終 末	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容のまとめをする。 次時の発表グループを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を通して考えの深化があったかを確認させる。 	